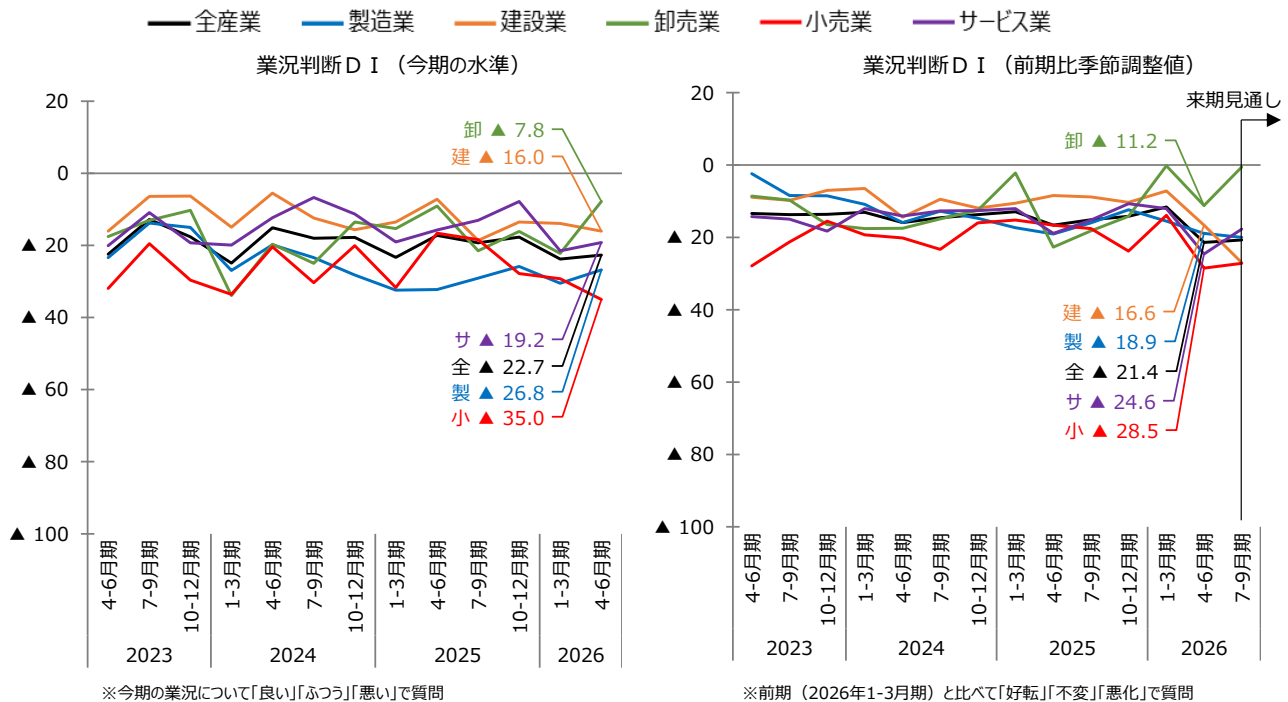


第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 北海道

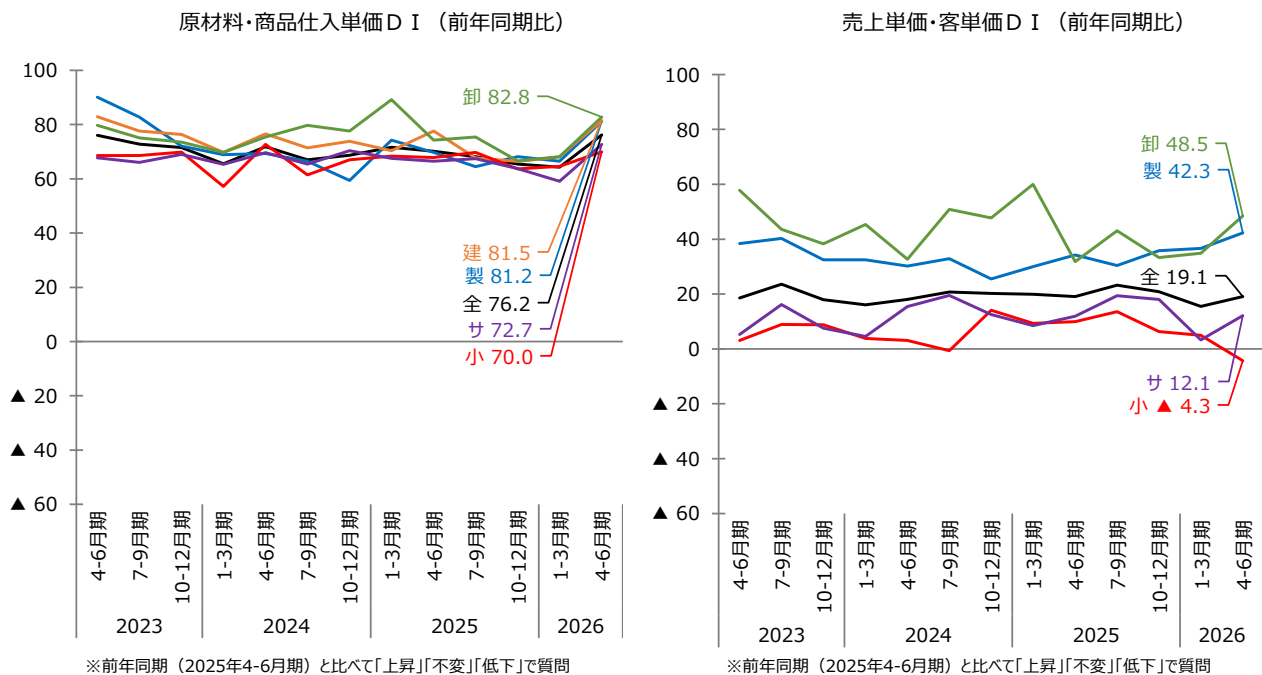
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より1.1ポイント増の▲22.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、サービス業で上昇し、小売業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より11.9ポイント増の76.2と5期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で3.6ポイント増の19.1と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

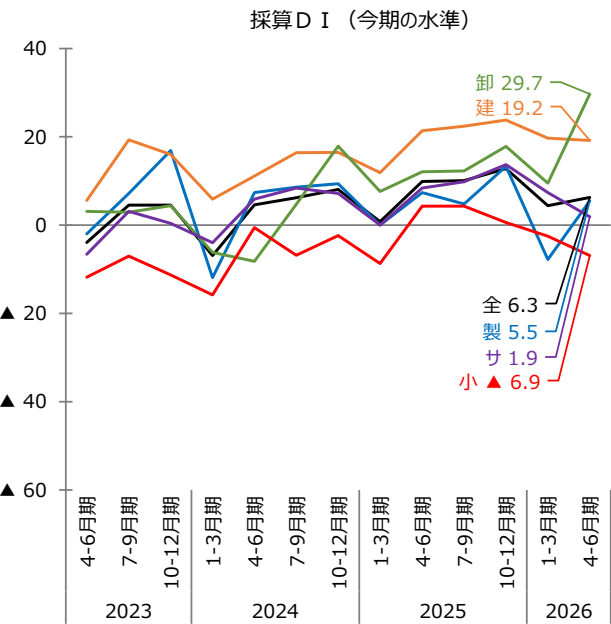
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、北海道：711企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 北海道

3. 採算

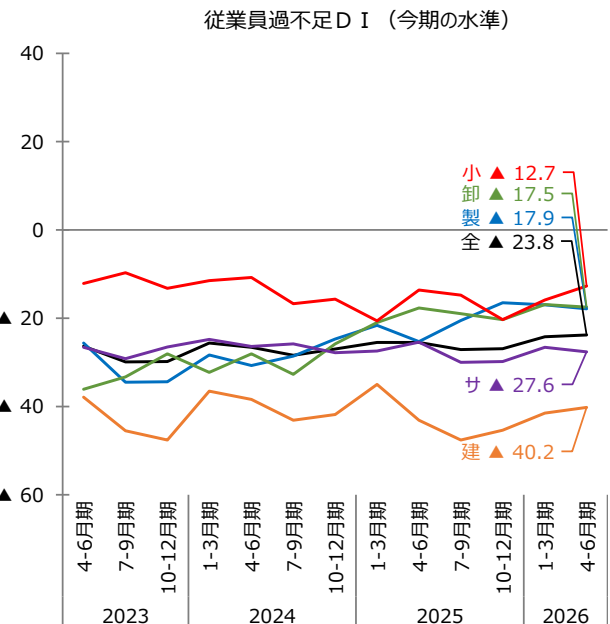
採算DIは、全産業で前期より1.9ポイント増の6.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、小売業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で0.4ポイント増の▲23.8と3期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、建設業で上昇し、サービス業、製造業、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 北海道の中小企業の声

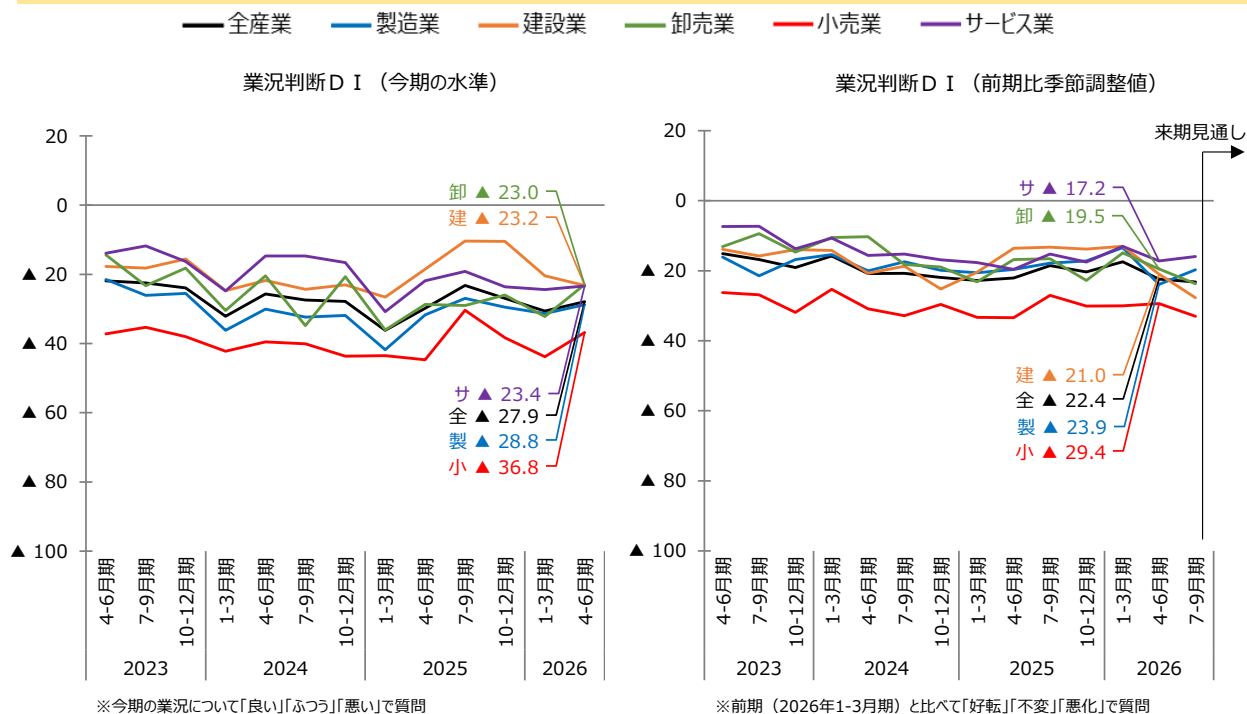
業況判断の背景		業種	
現 状	原材料がナフサ由来のため、価格の急激な高騰と購入に制限がかかった。工場の稼働は原材料の輸入量を見ながら行わざるを得ない。納入先からは資材不足の懸念から通常より多く注文が入っている。	製造業	他に分類されないプラスチック製品製造業
	中東情勢の影響が大きく、資材の入手が困難。また、資材の仕入価格が仕入の都度上がっており、価格転嫁がしにくい。見積み時点よりも実際の発注時点の仕入単価が上がっており、計画利益を確保できない。	建設業	冷暖房設備工事業
	今期は中東情勢の緊迫化に伴い、石油製品を中心にメーカー各社から値上げ、欠品、出荷制限の案内が届き、値上げ前の駆け込み需要にも対応しきれず、苦労している。	卸売業	建築用金属製品卸売業（建築用金物を除く）
	低価格帯の包装資材が軒並み欠品、来月にはラベルシールやレシート、レジ袋の仕入価格が値上げになる。高騰した分を売価に転嫁すると買い控えに繋がりがかねない。今後、売上と利益の両方を維持していけるか非常に不安。	小売業	食料品スーパーマーケット
	フードデリバリーサービスへの掲載を開始し、テイクアウト販売の売上増加を見込んでいる。	サービス業	酒場、ビヤホール
見 通 し	中東情勢の影響により石油由来の材料の入手が難しい状況。価格の上昇は、まだ良い方で、実際入手できない資材もある。6月までは在庫で対応可能であるが、それ以降は見えていない状況。受注はあるが生産出来ない可能性あり。	製造業	自動車部品・附属品製造業
	今のところ大きな影響は出ていないが、中東情勢の悪化が長期化すると、悪影響は避けられないと思われる。	建設業	一般土木建築工事業
	新規事業の展開（無人店舗）により、状況は好転の兆しがあるが、リスクを行っており商品購入の為の資金を確保できず、新たな店舗導入が難しい。	卸売業	乾物卸売業
	中東情勢の悪化により、企業・家計への負担は増しており、見通しは暗い。臨機応変に対応していくのみである。高止まりの株価で極めて厳しい状況は続くと思われる。	小売業	他に分類されないその他の小売業
	原材料や仕入価格の上昇が継続しており、経営を圧迫している状況。価格転嫁の必要性は認識しているものの、販売価格への反映によって利用客の減少や売上低下につながることを懸念している。	サービス業	酒場、ビヤホール

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 東北

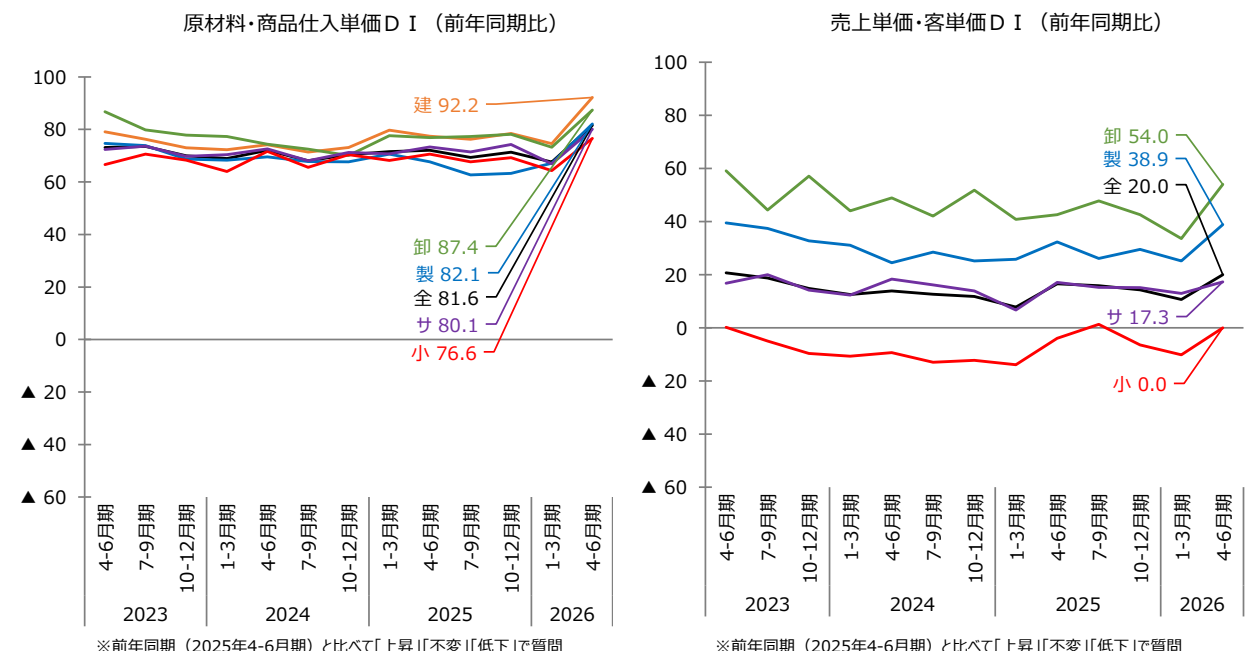
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より2.7ポイント増の▲27.9と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業、サービス業で上昇し、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より14.0ポイント増の81.6と2期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より9.3ポイント増の20.0と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

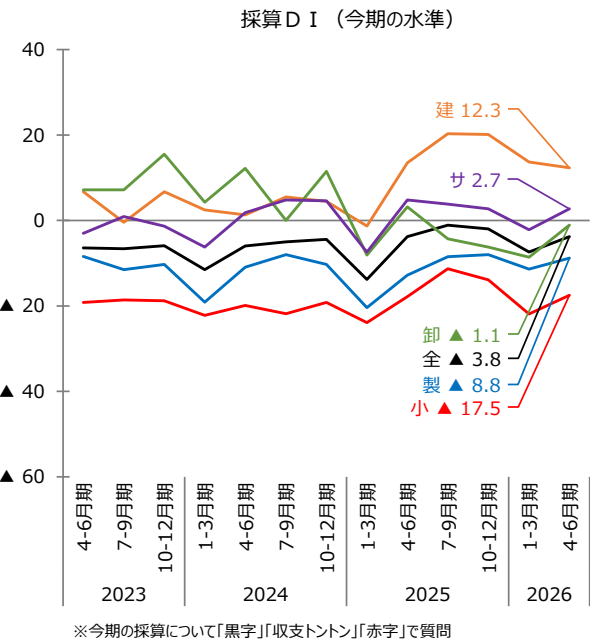
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、東北：1,752企業

※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 東北

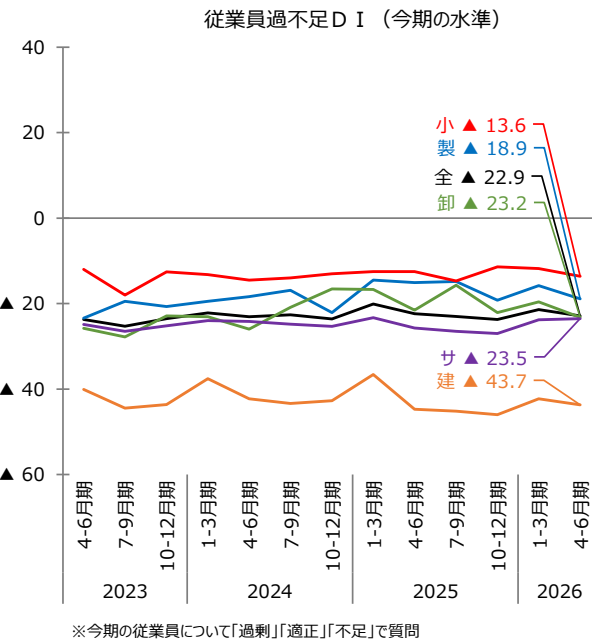
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より3.6ポイント増の▲3.8と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.5ポイント減の▲22.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、小売業、建設業で低下した。



5. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現 状	原材料の単価が上昇・供給不足で、特に製本に必要な接着剤が入ってこない状況が深刻化している。値上がり前に紙等の在庫を確保したことで、当面の生産は維持出来るものの調達不安定さやコスト増が業務全体に影響している。	製造業 オフセット印刷業（紙に対するもの）
	材料価格の上昇と高圧ケーブル、キュービクル等材料入手に6か月以上期間を要する物もあり、引合い、受注、着工、完成、回収現金化まで長期となり採算面での悪化を招いている。	建設業 一般電気工事業
	中東情勢の悪化による物流・製品のコスト高騰により、仕入商品の値上げ間隔が短く（2～3か月）、価格転嫁がスムーズに進まず、そのため利益幅が少なくなっている。また、賃金増での人件費負担も大きい。	卸売業 その他の各種商品卸売業
	大型・中型店が進出している中、商品単価の上昇や身近な商品であるゴミ袋がナフサの影響で仕入ができない状態であるため、顧客離れが起きている。	小売業 酒小売業
	中東情勢の悪化による建設資材の高騰で、建築企画・計画も延期や中止となっている。今後の見通しが立たず、職人たちの確保も困難になっていくと思われる。当事務所も影響は出ると思われる。	サービス業 建築設計業
見 通 し	7月の新商品販売に向けて、現在製造を加速させ在庫を確保している。新商品の販路開拓を進めており順調に進めば売上の向上が見込まれる。	製造業 肉加工品製造業
	世界情勢の影響でシンナー不足や材料が入手しづらい状況により、受注を逃す恐れがあり先行きが不安。	建設業 塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	中東情勢の影響により、仕入価格の値上がり、販売価格の値上げもある。先行きは不透明。	卸売業 他に分類されないその他の卸売業
	県の家電エコポイントやエアコン、蛍光灯の27年問題があり、交換需要の高まりがあって今期は増加傾向にある。ただ、需要の先食いなので来期以降が心配。	小売業 その他の各種商品小売業
	昨年12月、今年4月にあった地震が観光業には大いに売上に影響していると考えている。今後も自然災害等、または世界情勢（物価高）を考えて経営していくことを思うと先が見えない。	サービス業 旅館、ホテル

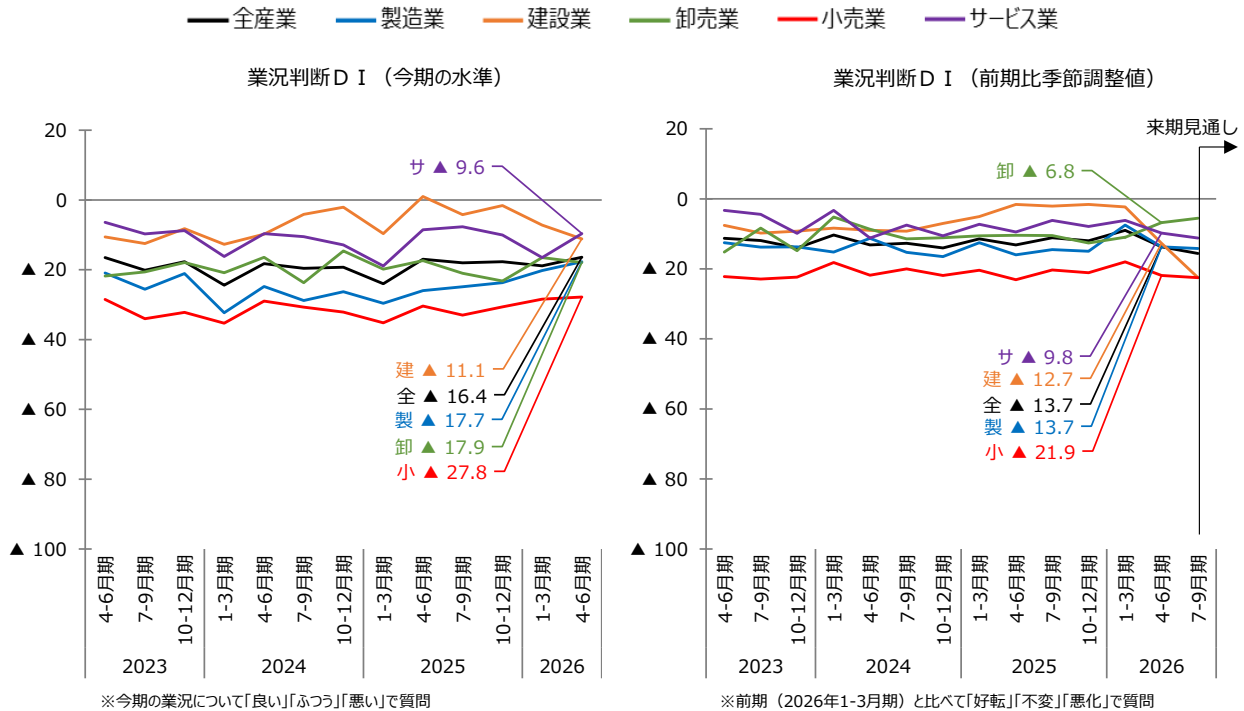
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 関東

中小企業の価値を、
Be a Great Small.
中小機構 日本に原動力に。

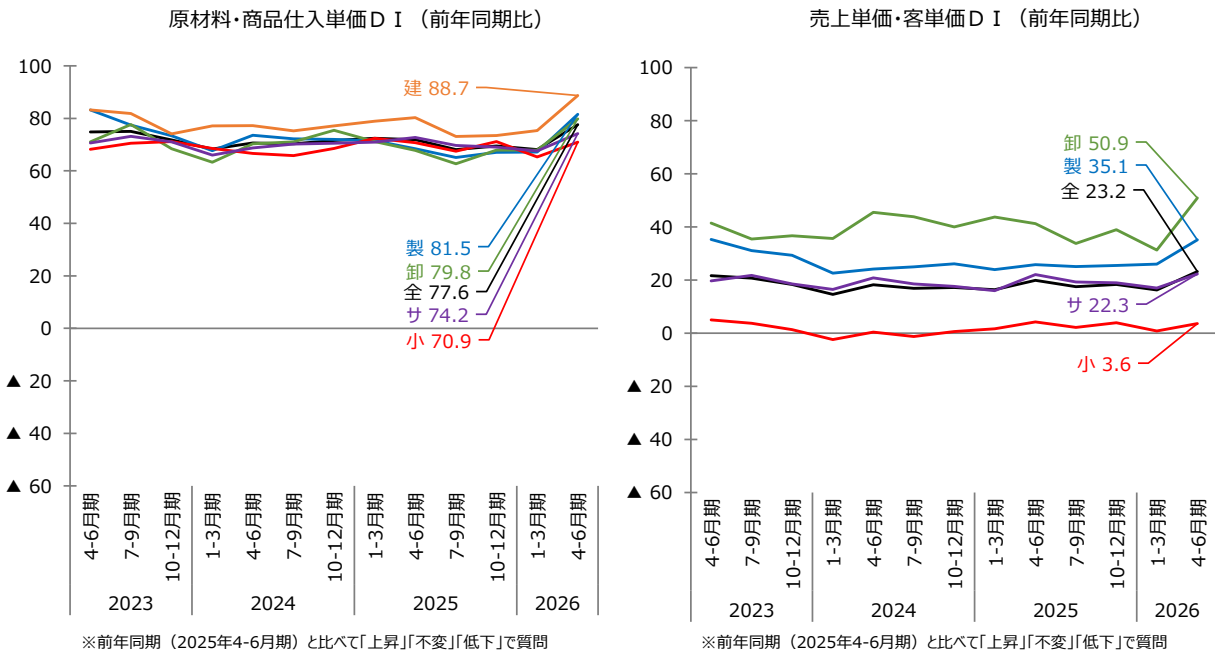
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より2.5ポイント増の▲16.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、小売業で上昇し、建設業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より9.5ポイント増の77.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より6.9ポイント増の23.2と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

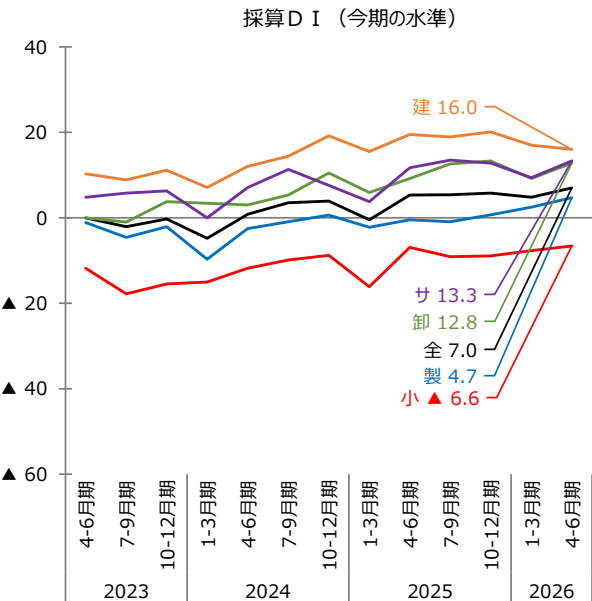
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、関東：4,853企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 関東

3. 採算

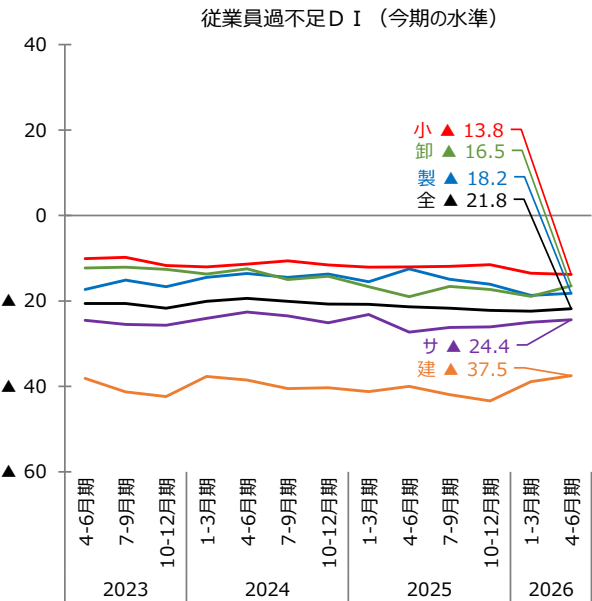
採算DIは、全産業で前期より2.2ポイント増の7.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、卸売業、製造業、小売業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の▲21.8と8期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現 状	半導体関連部品を中心に徐々に数量回復傾向にあり。しかし、銅材をはじめレアアース・非鉄金属、石油関連製品の入手難等による納期遅延、購入単価上昇で今後の企業活動に影響を及ぼす可能性大。	製造業	その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業
	内装材はプラスチック系が多いため材料価格の急上昇、品物によっては2か月入荷待ちの状況で工事の遅れが請求書締めに影響して入金が遅くなっている。	建設業	内装工事業
	ホルムズ海峡封鎖、ナフサの影響により、弊社取扱商品の供給が滞っている（ゴミ袋、食品容器、包装材料など）。5月以降、6月7月にかけ、ほぼ全商品値上げ。	卸売業	荒物卸売業
	ナフサの影響によるラベルや包材の値上げ、円安による肥料等の価格高騰で経費の増加が著しい。また、一般顧客の節約志向が徐々に高まっているように感じる。	小売業	他に分類されない飲食料点小売業
	生成AIをはじめとする、DXやIT化の需要の高まりにより業績は良くなっている。一方、対応できる人材の確保や育成に課題がある。	サービス業	情報提供サービス業
見 通 し	中東情勢による物資の影響が不明だが、影響が小さければデータセンター向けや、生産設備向けの需要は好調に推移すると予想している。ほかは大きな変動はないと予想しているため、全体的に好転するものと期待している。	製造業	金属製スプリング製造業
	材料費の急激な上昇に加え入荷遅延となり、利益が圧迫される中、客足が遠のき、先行きが不安定な状況。打開策を考えねばならない。	建設業	一般土木建築工事業
	今のところ新規案件も決定し、既存客の維持もできているが、お客様の倒産廃業が今後進行すると考えている。	卸売業	その他の衣服卸売業
	昨秋に高値で仕入れたコメ在庫が重荷になる中、市場価額は下落し販売も低迷。資材費や運搬費などコストも上昇し、営業環境の厳しさは増加。今期の新米について、安価な仕入れは期待しづらく、先行き不安が大きい。	小売業	米穀類小売業
	AIの急速な発達で、当社の顧客に影響があるか少し不安である。	サービス業	情報提供サービス業

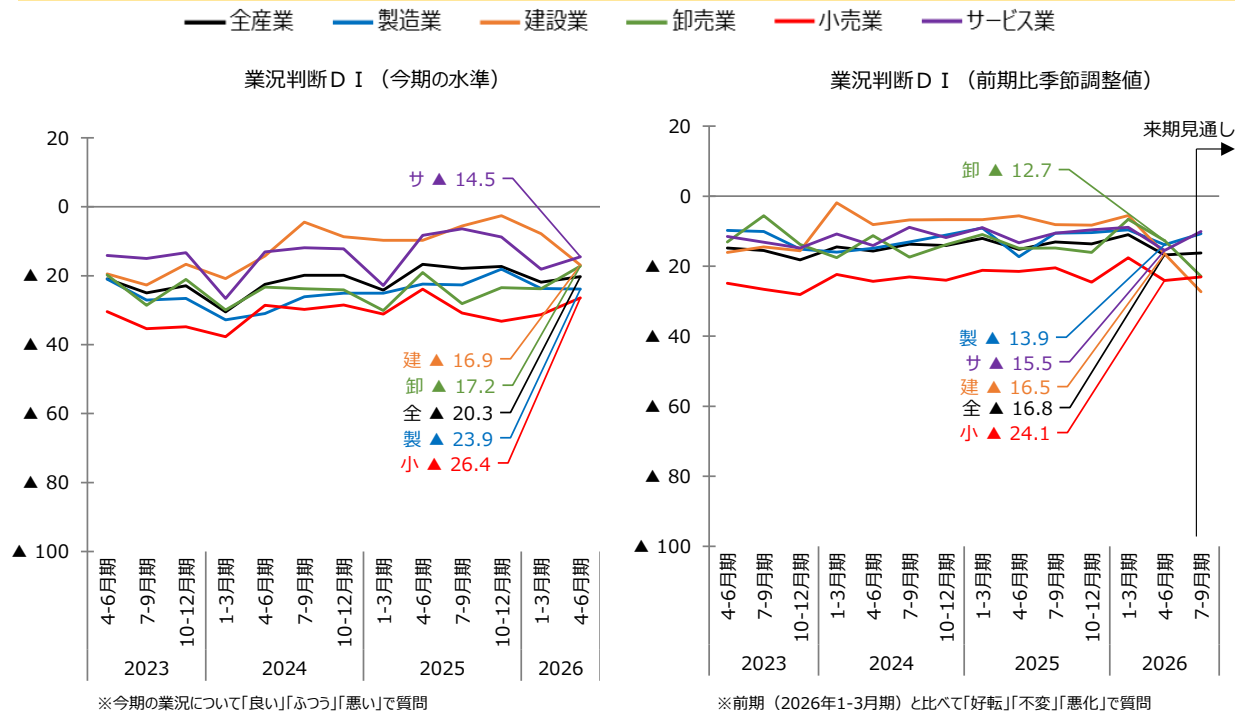
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 中部

中小企業の価値を、
Be a Great Small. 日本に原動力に。
中小機構

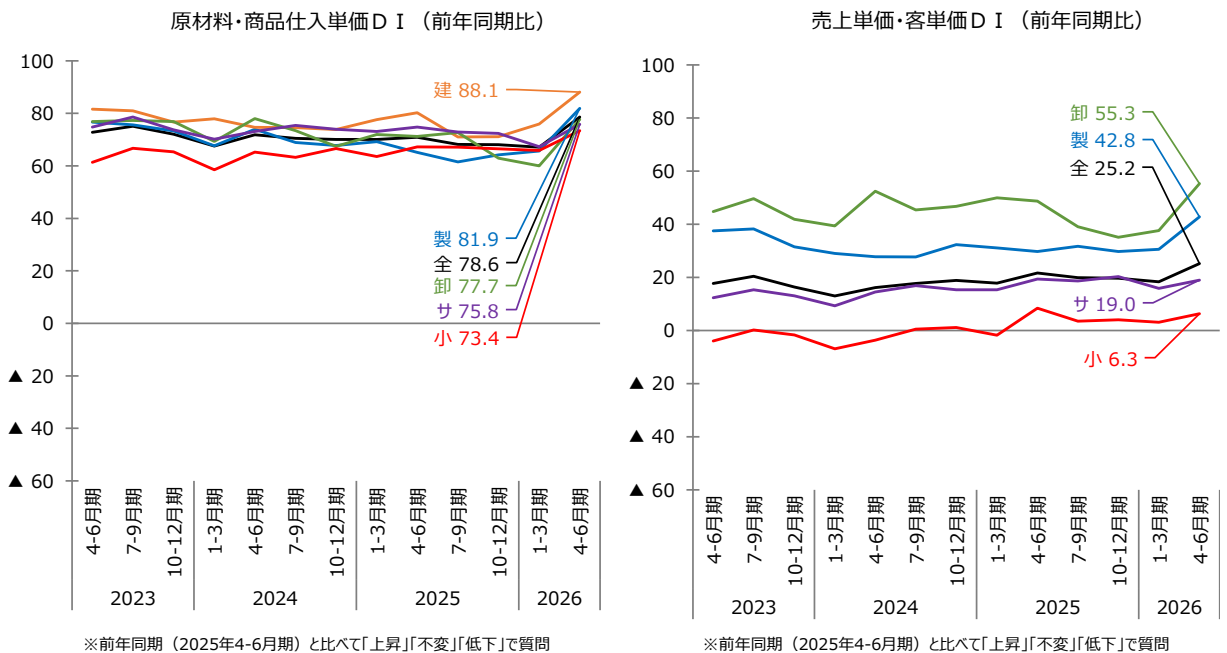
1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より1.6ポイント増の▲20.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より11.5ポイント増の78.6と4期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より6.9ポイント増の25.2と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

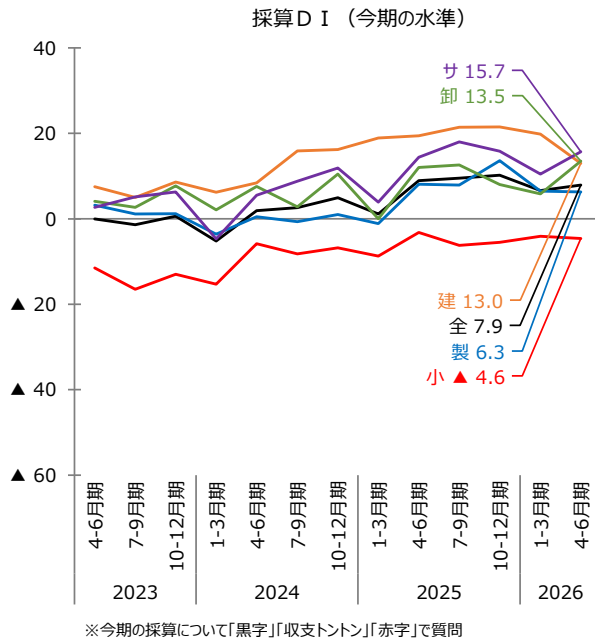
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、中部：2,281企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 中部

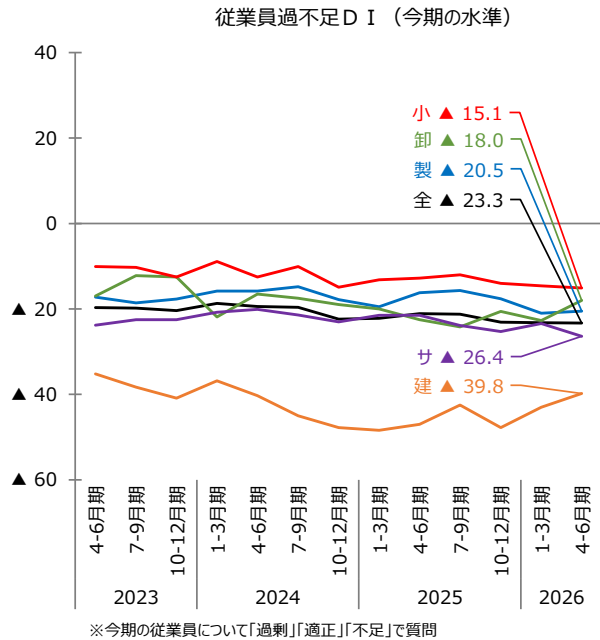
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.3ポイント増の7.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、建設業、小売業、製造業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲23.3と4期連続してやや低下した。産業別にみると、卸売業、建設業、製造業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



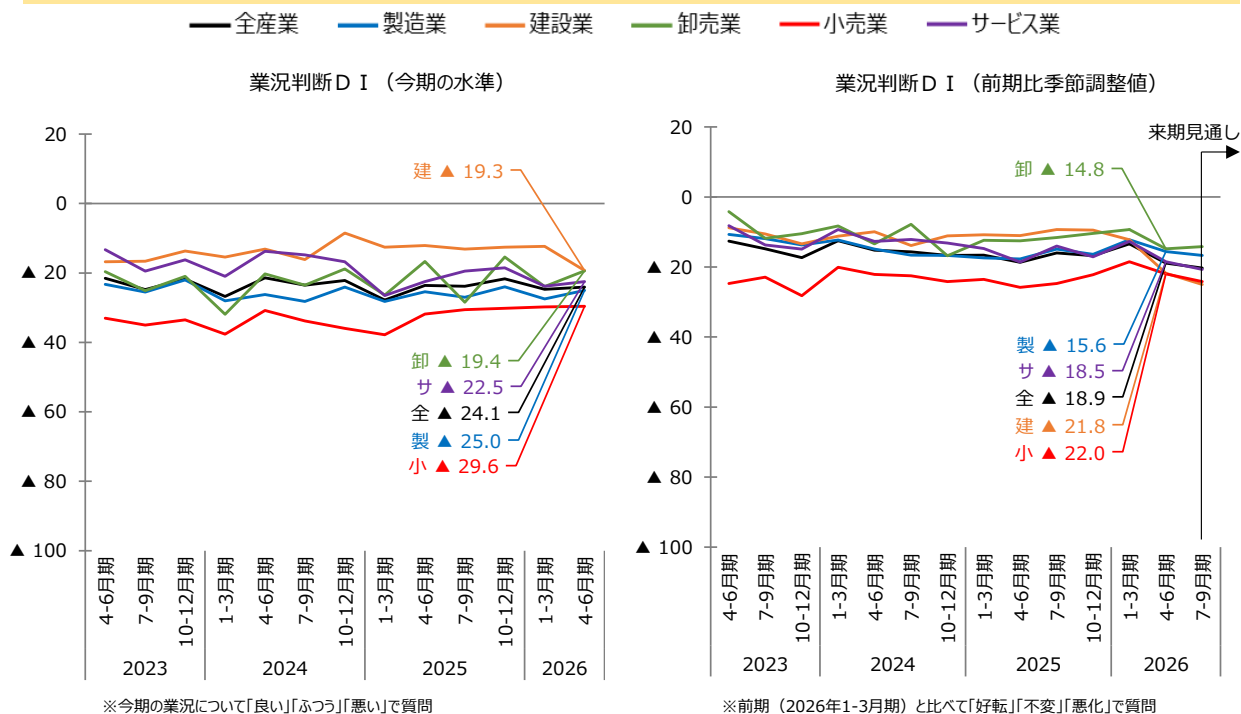
5. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	前年度の価格交渉による売上単価上昇が見込まれる一方、値上げ前納入や在庫調整で受注は低調。資材・原料高騰によるコスト増が懸念されるが、サイト短縮により資金繰りは改善している。	製造業	医薬品製剤製造業
	中東情勢による材料の入手困難に加え、新築が減少しているのでリフォームに参入する業者が増えた印象。	建設業	木造建築工事業
	中東情勢の影響で、5月から原材料の高騰による仕入原価の高騰に加え、物流費や梱包材など経費の高騰がある。一番深刻なのは、現在受注した商品が納品できるのかが不透明なため、新規受注が取り難い環境になっていることだ。	卸売業	織物卸売業 (室内装飾繊維品を除く)
	中東情勢の影響を受け、塗装材料や合板、ウレタンの納期遅延及び仕入価格が上がっている。今後、商品の売価に転嫁していく必要があるが、さらなる需要の停滞を招く恐れがあり、価格転嫁の程度の見極めが難しい。	小売業	家具小売業
	観光バスはアメリカ・イランの戦争によりインバウンドの仕事が減っている。	サービス業	一般貸切旅客自動車運送業
見通し	中東情勢の問題で材料の入手困難や小材料の大幅な値上20%～40%のため、来期の見通しなし。今期手持ちの材料があったためなんとか対応できたが、今後はわからない。	製造業	畳製造業
	材料が入手できず、工事計画が立てられない。そのため、今後の売上の見込みが立たない。	建設業	建築金物工事業
	ホルムズ海峡封鎖による原材料の供給不足により、プラスチック食器類や陶磁器食器類の製造が制限され、仕入商品の供給不足で売上・利益の見通しがつかなくなっている。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	特にエアコンについては2027年問題が大きく取り上げられ、機種によっては品不足、在庫なし。また、部材なども高騰。在庫切れが続出している。LED化についても同じでしばらく市場は悪化すると見込んでいる。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	生活物価全般が上がっているため、顧客の車のキズ・ヘコミ修理に対する財布の紐が固くなるのが心配。ナフサの調達難に伴うシンナーや塗料の急激な値上げや欠品が心配。	サービス業	その他の自動車整備業

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 近畿

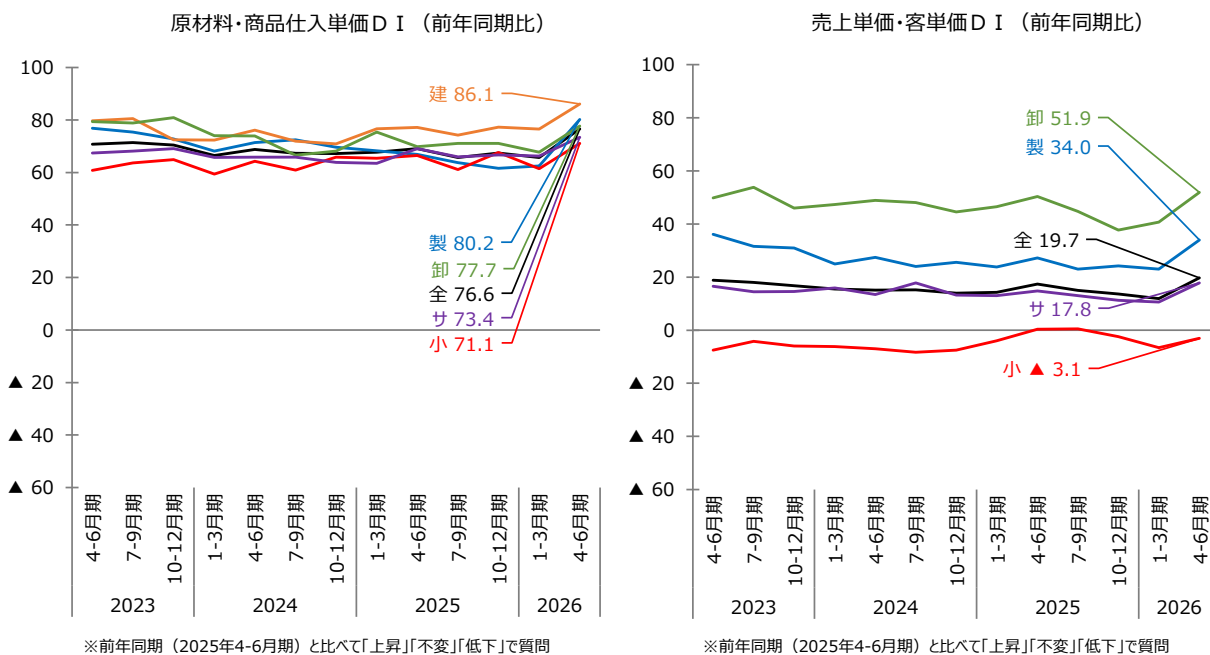
1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より0.6ポイント増の▲24.1と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、サービス業、小売業は上昇し、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より10.9ポイント増の76.6と2期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より7.8ポイント増の19.7と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

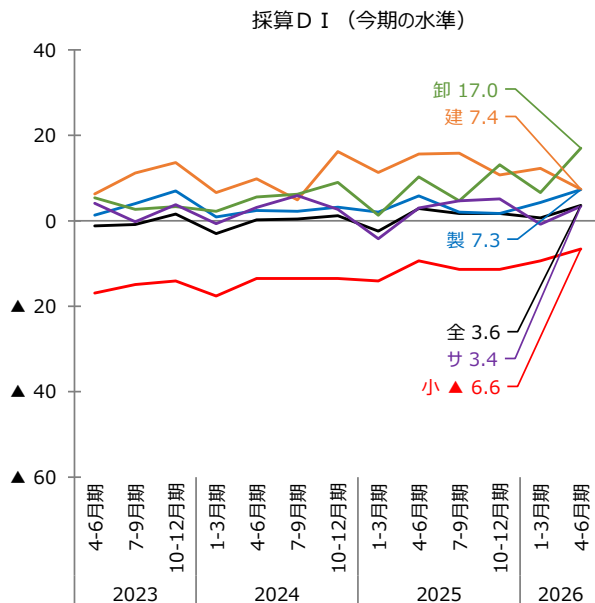
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、近畿：2,511企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 近畿

3. 採算

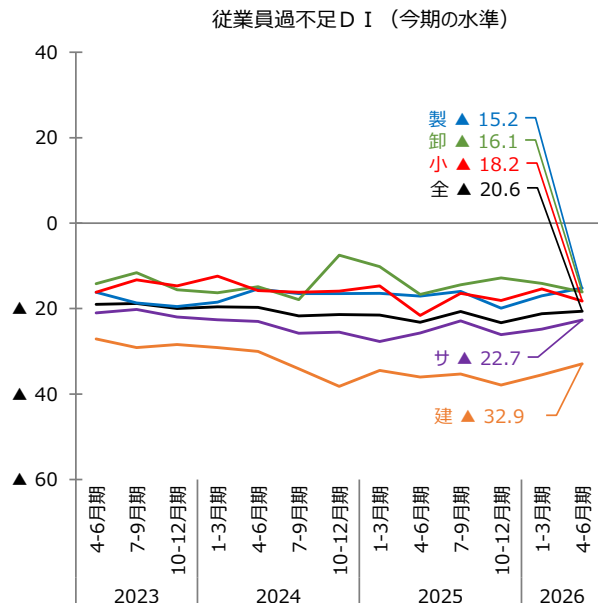
採算DIは、全産業で前期より2.9ポイント増の3.6と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業、小売業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の▲20.6と2期連続してやや上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 近畿の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現 状	客先から半導体関連、船舶関連商品の部品受注が増加したため、自社の売上が増加した。	製造業	他に分類されない金属製品製造業
	中東情勢の悪化で、材料の入手困難と金額の上昇等で予定が組めないこと、物価高で今以上に利益が減ることがある。受注のめどが立たない。	建設業	板金工事業
	ナフサの影響は、中小企業へ大きなダメージとなっている。ロットが小さいため、WEBで資材を購入しているが、そうしたルートへの供給は軒並みストップしており、袋詰め用資材が手に入らない。	卸売業	野菜卸売業
	近隣医療機関への患者数が減少しており、当所への患者数も減少している。また、石油関連製品の影響により、当所で扱う消耗品も入手しづらくなってきて苦労している。	小売業	調剤薬局
	どの業界においても、中東情勢による材料の仕入単価が上昇している中、当業界も資材一律20%～30%上昇し、商品への価格転嫁が進まず、また、資材の調達にも遅れが生じており、納期が遅れている現状である。	サービス業	広告業
見 通 し	2月末、米国のイラン攻撃後4月5月と徐々に経済状況が悪くなり、印刷業界にも波紋が広がり売上が大きく減少してきた。諸材料も値上がり、先行きが不透明である。	製造業	紙器製造業
	中東の影響で資材の入手難。単価上昇の影響で工事の引き合いはあるものの見通しが立てにくい状況。加えて、職人不足の問題もあり、工事の予定が不透明である。	建設業	一般土木建築工事業
	戦争の影響と仕入先メーカーのシステムトラブルによるダブルパンチで商品が入荷せず納期未定のものばかりで見通しが立たない。	卸売業	塗料卸売業
	イラン戦争により4月から石油関連商品（ポリ袋、食品ラップ）の値上げが続いている。秋には、トイレトーパー、ティッシュや他の商品の値上げが考えられる。	小売業	その他の各種商品小売業
	前期でインバウンドが落ち込んでいたが、徐々に回復した。前年と比べると万博がない分、滋賀に客足が向いているように感じる。ただ、来期について、国内も海外も良くない。予約の間際化が進んでいるのか、原因はわからない。	サービス業	旅館、ホテル

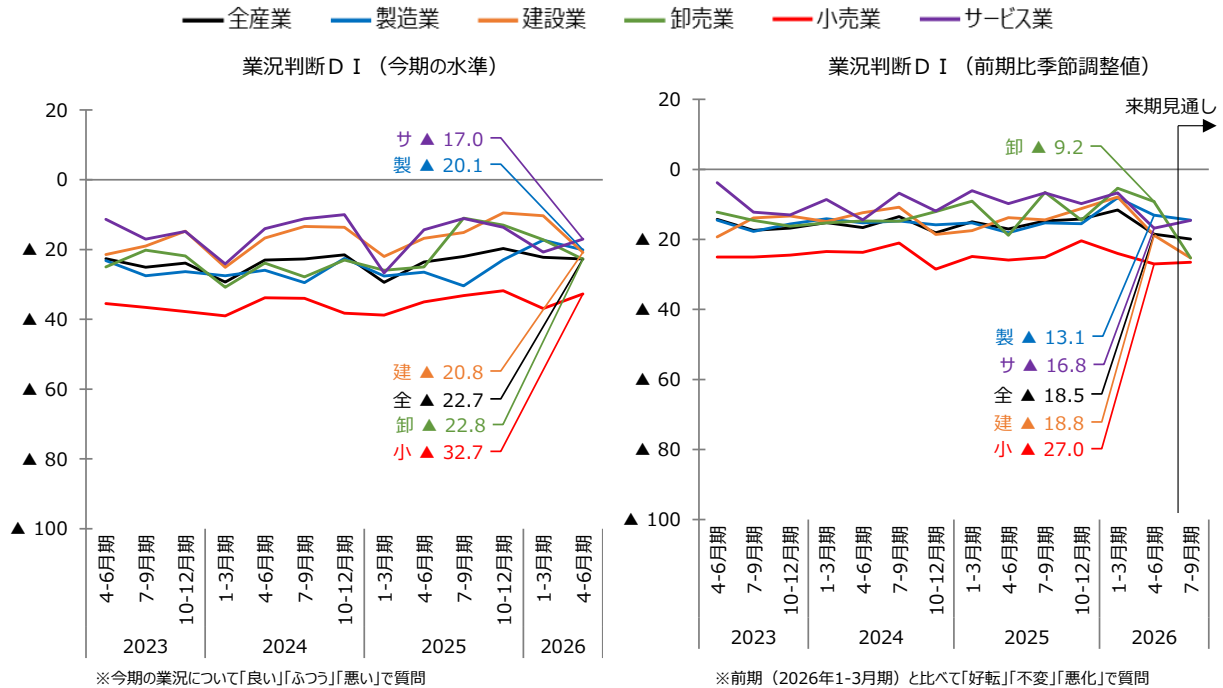
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 中国

中小企業の価値を、
Be a Great Small.
中小機構 日本原動力に。

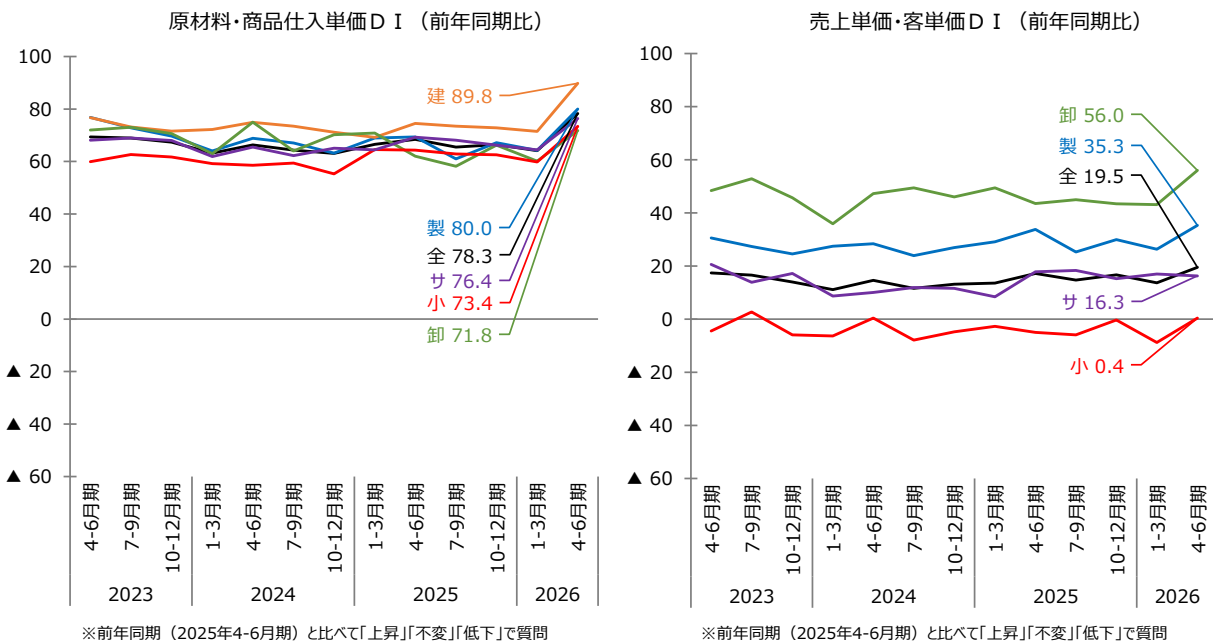
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より0.5ポイント減の▲22.7と2期連続してやや低下した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、建設業、卸売業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より14.2ポイント増の78.3と2期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.8ポイント増の19.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業で上昇し、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

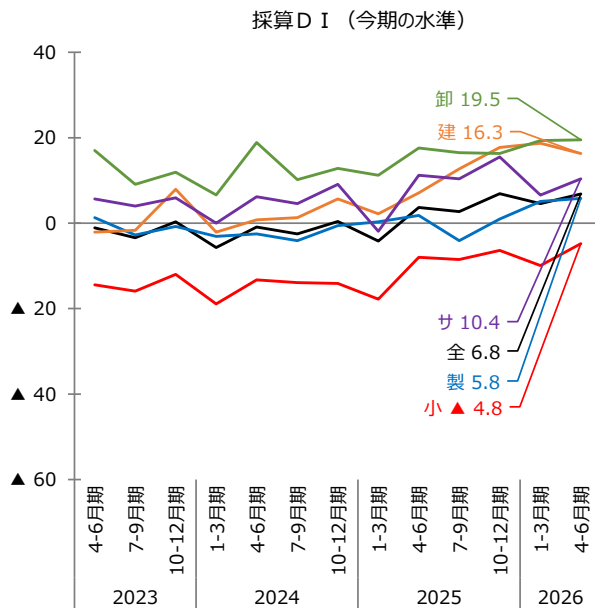
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、中国：1,654企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 中国

3. 採算

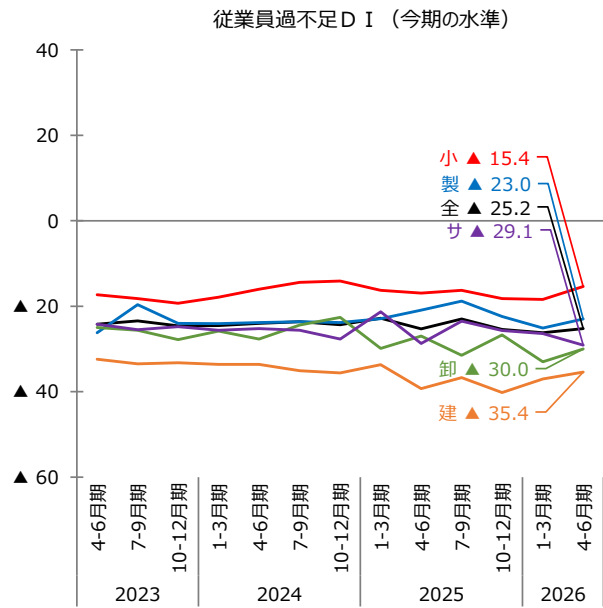
採算DIは、全産業で前期より2.2ポイント増の6.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.0ポイント増の▲25.2と3期ぶりに増加した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業、建設業で上昇し、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中国の中小企業の声

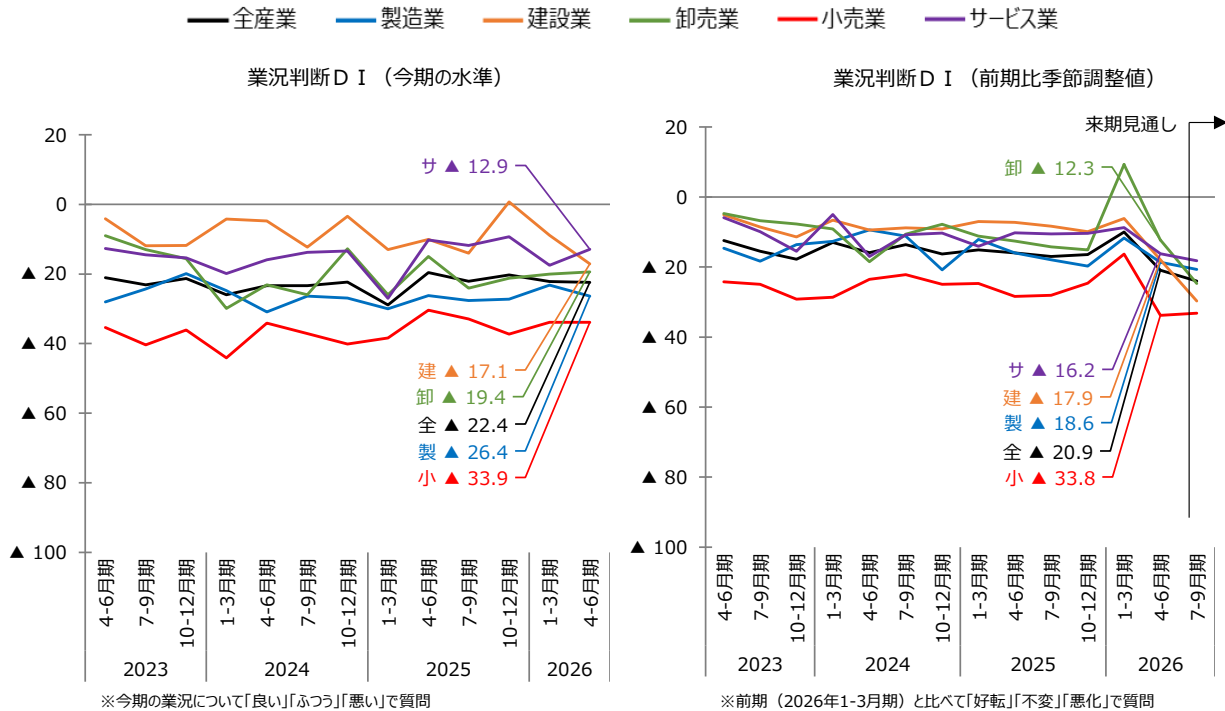
業況判断の背景		業種	
現状	イラン情勢の影響により、包材関係の価格が約3割上昇している。価格転嫁を進めているものの、元々比較的单価が高いので、購買の優先順位が下がり、買い控えが生じているように感じる。	製造業	味素製造業
	昨年からの建築基準法改正、中東情勢の悪化による材料費の高騰等による坪単価の上昇、長期金利の上昇等で新築工事が減り、業界全体が厳しい状況にある。	建設業	木造建築工事業
	中東情勢による仕入商品の遅延等により、販売できる商品が限られている。また、得意先からの受注に対して対応できていない。	卸売業	鉄鋼一次製品卸売業
	仕入単価の値上げが何度もあり、ここ最近は今までと比較してかなり大幅な値上げのため、自社商品の値上げが追いついていない。既存のお客様の購買力も低下している。	小売業	その他の各種食料品小売業
	売上・客数とも前年を上回った。観光客に加え、近隣市内の宿泊先不足による平日のビジネス利用が増加。利用目的や宿泊ニーズの変化を強く感じる。	サービス業	他に分類されない宿泊業
見通し	工賃仕事なので単価は変わらないが、徐々に軽油・消耗品等が高騰しており、営業利益が減少している。また、繊維についても、石油由来の製品もあり、ナフサ問題が今後どうなるか先行きが不安である。	製造業	他に分類されない衣服・繊維製身の回り品製造業
	中東情勢の影響で出荷が止まっている材料、資材が有り、先行きが見えない。今すぐの影響はないが、長引くと工事の受注、施工に影響が出る可能性がある。	建設業	道路標示・区画線工事業
	中東情勢悪化の影響で取扱商品の大半が受注制限、価格上昇が3月上旬より起き、情勢が沈静化しても暫くはこの状況が続くそうで今後の見通しが心配。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	現時点で大きな変動はないが、ナフサの影響等が懸念されることから、製品入庫が追いつかず、在庫の減少が懸念される。仕入れ値の上昇も懸念され、収益悪化、業況悪化の見通し。	小売業	医薬品小売業（調剤薬局を除く）
	島根原発2号機の定期検査が9月まで予定されているので、それまでの期間は業況は良いと思う。9月以降の業況はタクシー業界として悪化すると予想される。	サービス業	一般乗用旅客自動車運送業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 四国

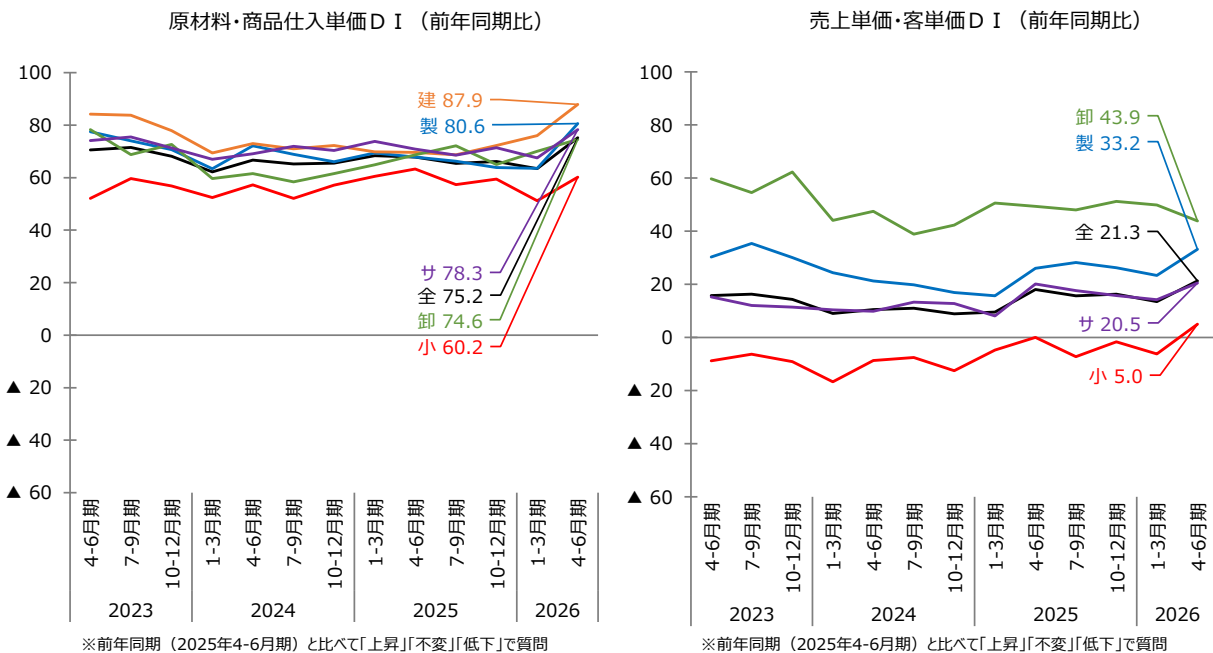
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より0.2ポイント減の▲22.4と2期連続してやや低下した。産業別にみると、サービス業、卸売業で上昇し、小売業で横ばい、建設業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より11.8ポイント増の75.2と2期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より7.8ポイント増の21.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、製造業、サービス業で上昇し、卸売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

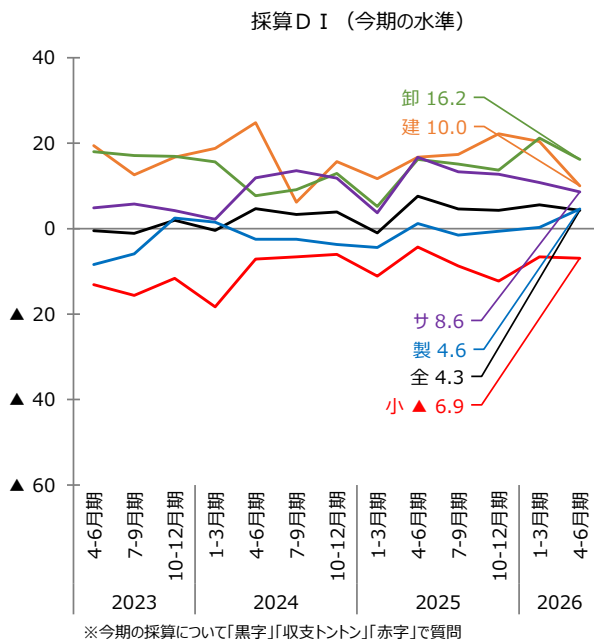
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、四国：1,212企業

※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 四国

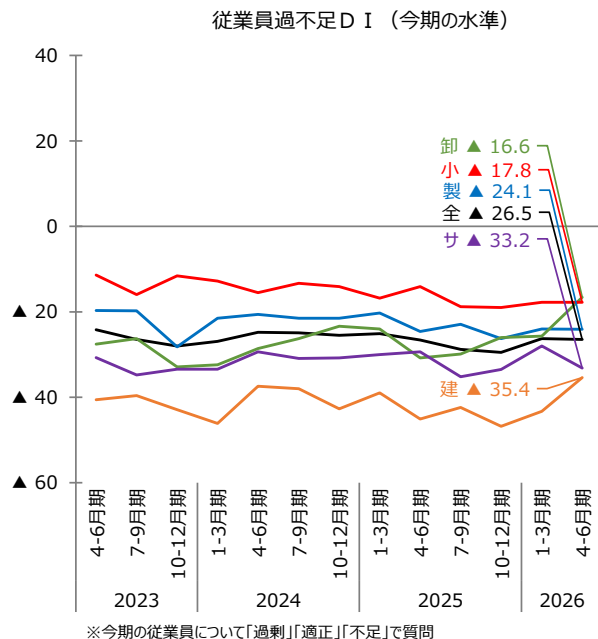
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.3ポイント減の4.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、建設業、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の▲26.5と2期ぶりにやや低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、小売業で横ばい、サービス業、製造業で低下した。



5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	中東情勢の影響等により、材料・刃物・購入部品など全て大幅な値上げがおきており、特に半導体関連部品の短期間で度重なる価格の高騰においては、見積り時との価格差が製品に反映できなくなっている。	製造業	他に分類されないはん用機械・装置製造業
	資材価格は1.5～2倍以上高騰しているものもあるが、請負単価を同様に引き上げることは現実的に難しく、利益を圧迫している。	建設業	一般管工事業
	中東情勢で建築業界の停滞、仕入商品の単価上昇、欠品が続いており、業況悪化となっている。	卸売業	塗料卸売業
	2027年4月から家庭用エアコンの新たな省エネ基準が適用されることに伴い、買い替え・更新需要は高まっているものの、低価格帯を中心に在庫確保が難しくなっている。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	エンジンオイルを中心に毎月のペースで10～15%ずつ値上がりしている状況。パーツクリーナー等、物によっては供給が停止しているものもある。	サービス業	自動車一般整備業
見通し	仏壇製品を製造するために必要なボンドが入手困難に。6月中には無くなる可能性大。ベニヤ板も減少気味。人件費の影響はまだ出てきていないが、資材確保難で売上が思うように立たなければ、影響が出てくるかも。	製造業	宗教用具製造業
	石油関連製品の入荷が遅くなり、これから受注する工事には影響が出ると思われる。値上がりが今年に入り2度目という商品もあり、今後の見通しがつかめない。	建設業	給排水・衛生設備工事業
	中東情勢の影響でナフサ由来の製品が供給不安定となっており、製品単価の上昇と入手困難な状況が当面続くものと思われる。	卸売業	婦人・子供服卸売業
	今現在は大きな影響は出ていないが、ナフサ関連の影響により、仕入単価の上昇や物価高騰による今後の不安は大きい。	小売業	化粧品小売業
	中東情勢の不安定化に伴い、石油系資材、材料の値上がり、不足がじわじわと首をしめてきている。また、物価高に伴う利用控えもあり、これから先の経営の見通しは暗い。	サービス業	普通洗濯業

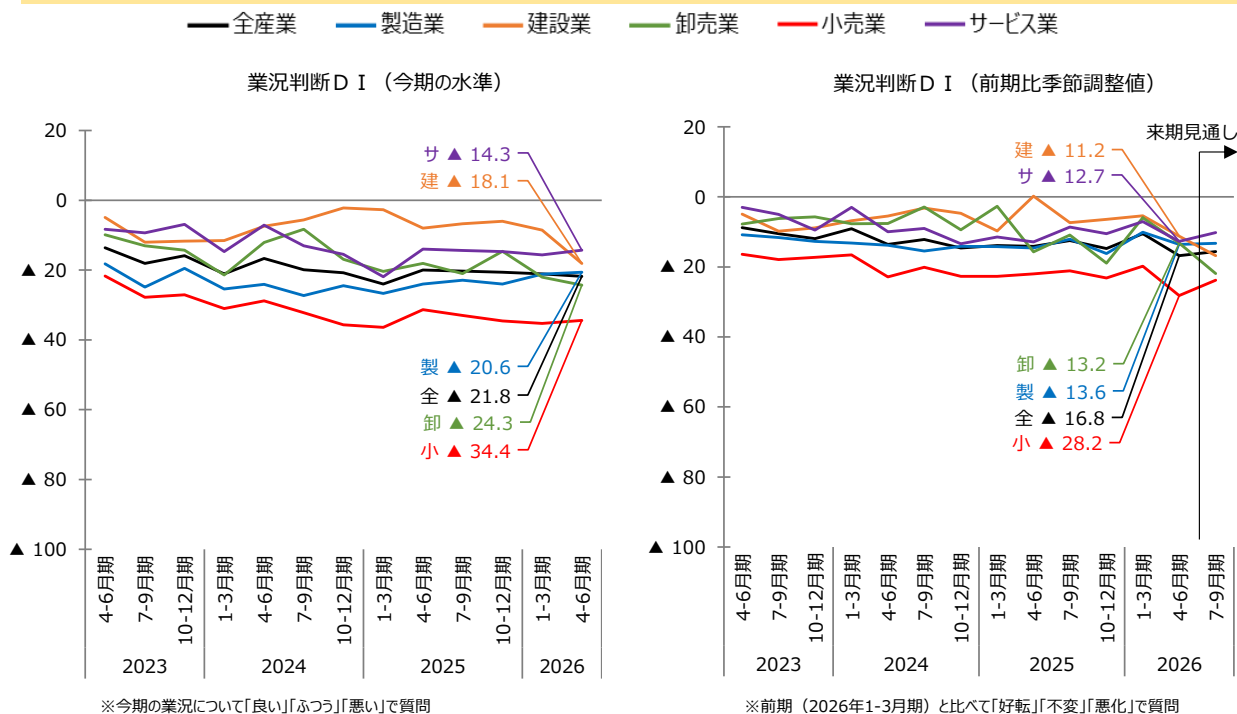
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 九州・沖縄

中小企業の価値を、
Be a Great Small. 日本に原動力に。
中小機構

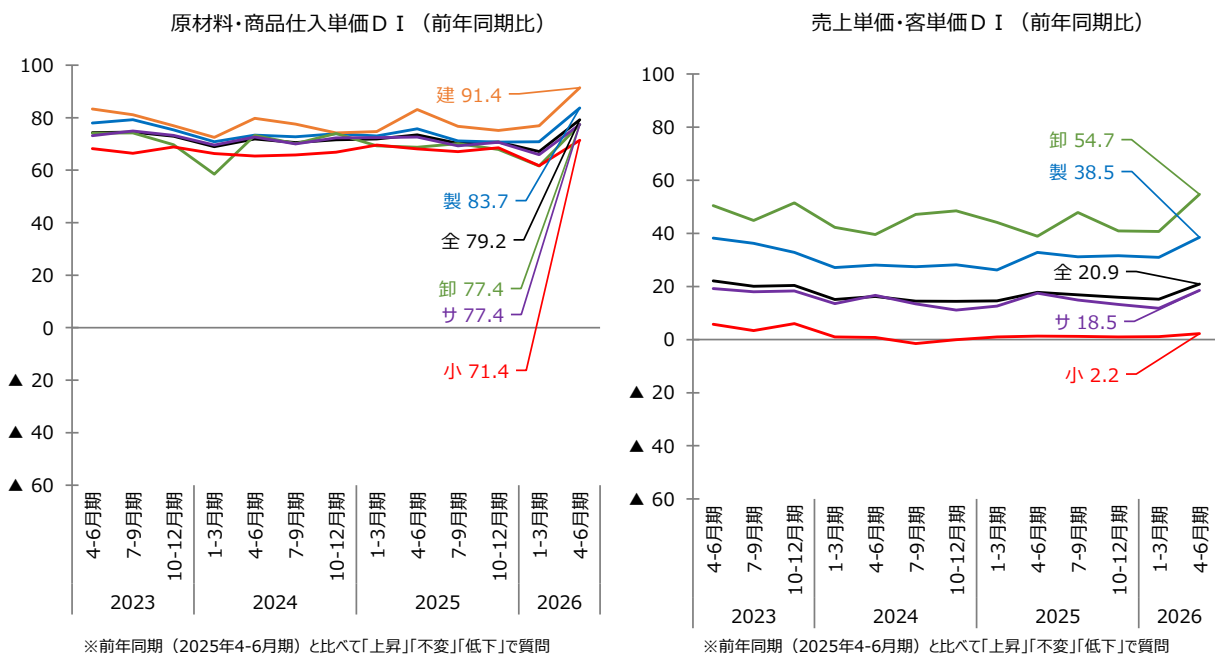
1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より0.7ポイント減の▲21.8と4期連続してやや低下した。産業別にみると、サービス業、小売業、製造業で上昇し、建設業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より12.1ポイント増の79.2と2期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.7ポイント増の20.9と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、九州・沖縄：2,760企業

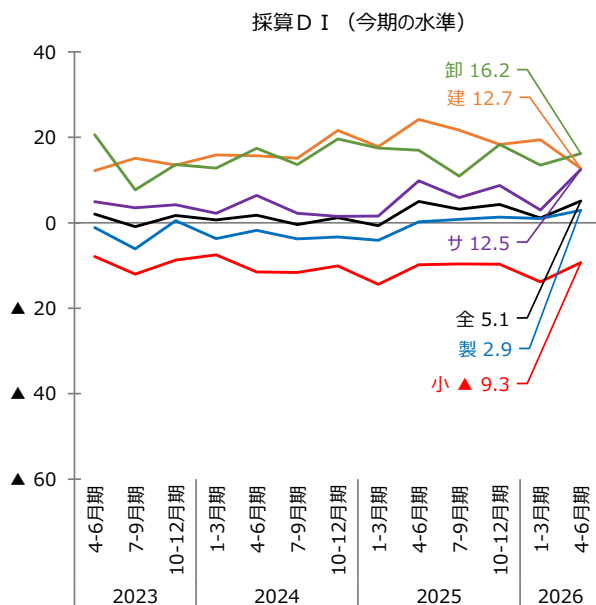
※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 九州・沖縄

中小企業の価値を、
Be a Great Small. 日本に原動力に。
中小機構

3. 採算

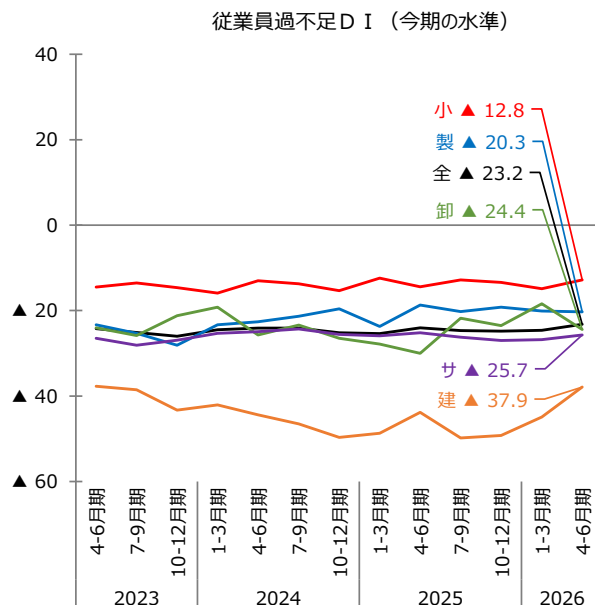
採算DIは、全産業で前期より4.0ポイント増の5.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、卸売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.4ポイント増の▲23.2と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、小売業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	引合いは多いが、顧客の希望よりも長い納期を見込まないと生産が追い付かない。これからも原材料費の値上げが予定されており、利益幅が薄くなることが予想される。	製造業	その他の外衣・シャツ製造業
	部材の流通制限の影響で、仕入単価が高騰している。お客様の負担軽減を考慮し、価格転嫁できていない。すべてにおいて悪影響がでており、末端事業者と卸業者（メーカー）の歪みがでている。	建設業	電気配線工事業
	中東情勢の混乱に伴い、石油製品の調達が困難となっているため、メーカーからの接着剤やプラスチック製品の仕入日数が長期化している。	卸売業	非鉄金属製品卸売業
	中東情勢による仕入単価の上昇が激しい。特に主力商品であるからあげ弁当の鶏肉の高騰が激しく、仕入れ値が約3倍値上がりしている。また、鶏肉や梱包資材が入手困難で経営状態は厳しい状況である。	小売業	他に分類されない飲食料品小売業
	洗剤、包装ナイロン類が5月から20～40%の値上がりとなるが、価格転嫁することが難しく、値上げを悩んでいる。	サービス業	普通洗濯業
見通し	印刷製本業は数年続いて原材料の値上げが継続している。それに加えて今回の外国での紛争の影響からインクの調達に影響が及ぶ恐れが出てきて先行きが見通せない状況。	製造業	製版業
	手持ち工事も減ってきて、現場員が過剰になっている状況。物価上昇、資材単価上昇の中、受注数も落込み、今後の受注も不透明。	建設業	一般土木建築工事業
	現在、受注している物件の資材を前倒しで購入して資材を確保しているため、過剰在庫の前払金が発生している。6月以降の新規物件に対して資材不足がどれくらい影響があるのか見通せない。	卸売業	木材・竹材卸売業
	中東情勢の影響により、またガソリン価格が上がり、配達コストが増加している。また、現在はメーカーより大きな仕入値上げはないが、今後のナフサなど原材料価格の上昇による値上げが不安である。	小売業	牛乳小売業
	得意先の業務拡大に伴い、新規取引が増加した。今後も予定があり、値上げによる利益の増加がある。これにより好転の兆しがある。	サービス業	一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)